

## 第2回 飼料用米普及のためのシンポジウム2016

### アンケート 結果

名 称：第2回 飼料用米普及のためのシンポジウム2016

開催月日： 2016年3月11日(金) 10:00~17:00

会 場： 東京大学弥生キャンパス 農学1号館 8番教室 (220名 収容可能)、農経会議室

参加者： 171名 回収数 50枚 (回収率 29%)

年齢構成： 20代 ( 5 ) 30代 ( 7 ) 40代 ( 8 ) 50代 ( 17 ) 60代 ( 9 )  
70代 ( 2 ) 不明 ( 2 )

男・女： 男性 ( 28 ) 女性 ( 22 )

所 属： 生協 (13)、・企業 (14)・団体 (5)・研究者 (6)・農業者 (1)・個人 (3)、その他 (3)  
行政 (2)、報道 (2)

今までに「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会」に参加したことがありますか？

参 加： 初回 (30)、

2回以上 (15) 不明 (5)

第2回 (1)、第3回 (1)、第4回 (1)、第5回 (2)、第7回 (2)、第8回 (3)

3回以上 第7回、第8回 (2)

① 理解できた。 ② 一部理解できない点があった。 ③ 理解できなかった。

		①	②	③	無答	計
①	挨拶	41	1		8	50
②	連帯の挨拶	41	1		8	50
③	基調講演 「我が国の食料政策について」	32	11		7	50
④	基調講演 「飼料用米の生産拡大にむけて～	40	6		4	50
⑤	特別講演 「畜産の明日を担う飼料用米という農業革命	40	2		8	50
⑥	事例研究報告 「豚への粉碎粳米の給与効果効	45	2		3	50
⑦	事例報告 「粳米サイレージ (SGS) 生産と利用体系	41	4		5	50
⑧	事例研究報告 「飼料用米の流通・保管	35	10		5	50
⑨	基調講演 「飼料用米の利活用について」	37	10		3	50
⑩	事例報告 「コープあいち 飼料用米の活用と畜産物	42	6		2	50
⑪	事例報告 「おかやまコープにおける飼料用米の活用	39	8		3	50
⑫	事例報告 「東都生協における飼料用米給餌生產品	38	8		4	50
⑬	事例報告 「JA加美よつば農協における飼料用米	45	2		3	50
⑭	特別講演 「食の自給率向上と安全保障」	36	10	2	4	50
⑮	閉会挨拶	32	2		16	50

①挨拶 一般社団法人 日本飼料用米振興協会

②連帯の挨拶 日本生活挙動組合連合会

③基調講演 「我が国の食料政策について」 農林水産省生産局

④基調講演 「飼料用米の生産拡大にむけて～米に関するJAグループの取り組み～」JA 全農

⑤特別講演 「畜産の明日を担う飼料用米という農業革命」東京農業大学農学部畜産学科畜産マネジメント研究室

⑥事例研究報告 「豚への粉碎粳米の給与効果について」東京農業大学農学部畜産学科 学生

⑦事例報告 「粳米サイレージ (SGS) 生産と利用体系の確立に向けた取り組みについて」(熊本県) 畜産研究所

⑧事例研究報告 「飼料用米の流通・保管における取組みについて」(東京都) 太陽工業

⑨基調講演 「飼料用米の利活用について」農林水産省生産局畜産部飼料課

⑩事例報告 「コープあいち 飼料用米の活用と畜産物普及の取り組み」(愛知県)

⑪事例報告 「おかやまコープにおける飼料用米の活用と商品運動について」(岡山県)

⑫事例報告 「東都生協における飼料用米給餌生產品の取組み報告」(東京都)

⑬事例報告 「JA加美よつば農協における飼料用米カントリーエレベーターの活用」(宮城県)

⑭特別講演 「食の自給率向上と安全保障」東京大学大学院

⑮閉会挨拶 一般社団法人日本飼料用米振興協会

## 主な意見、要望など

大変興味深いシンポジウムありがとうございました。

行政、生協、研究機関のそれぞれの視点から、飼料用米使用に関して、討論がされ、とても充実した内容であったと感じております今後の希望としては、畜産現場の方からの更に現実的な体験談を聞くことができればと思います。

実際に飼料用米を給与した豚肉、鶏肉、卵を試食し、普段食べているものと食味、色味を比較できたことは有意義だった。トウモロコシを給与した肉や味付け無しのお肉もあるとなお良かったように思う。講演内容も政策的な話からJAグループ、生協での事例を含めた取り組み内容の発表もあり、充実していた。

飼料用米生産は重要で、今後も継続する必要があると考えます。ただし、これが利権となってしまうよう、共通理解を形づくっていただきたいです。具体的には、この場で10万5千円の交付金が適正範囲で、どれくらいきりつめられるか、という議論がなされるとよいと考えます。主食並みの交付は一消費者として納得できないですし、これでは生産者の内面的発展を図ることができないと考えます。

盛り沢山の内容、充実したシンポジウムでした。大変ありがとうございました。※事務局の皆様、お疲れ様でした。

試食、とても美味しく頂きました。ただ、より飼料用米での農産物の「味」を把握するために、味付けをしない方が良いのではないかと思います。

進化した飼料用米の現状を感じられ、大変参考になりました。

内容が盛り沢山で情報量も多く参考になった。但し、発表者が多すぎ、時間がタイトで余裕を持った本音の話が出来なかったように思います。進行上、午前、午後の各1回ずつの休憩があれば良かったと思います。

今回はもちろん「飼料用米」をテーマにしてのことですが、国内自給を高めていくために、レポートリーを増やす必要があると思います。国産飼料用とうもろこしの話もあるように伺っています。徐々に「飼料用穀物」を考えていって欲しいです。

会場の関係で演者とスクリーンが近すぎ、演者が説明しにくそうだった。正面スクリーンの色も悪い。朝方は会場が寒かった。スライド操作がスムーズでなかった。試食はインパクトがあった。全量飼料用米でもおいしかった。コープの発表は販売現場の努力とポリシーが感じられた。JA加美よつば産地の取り組みは大変参考になった。特に、680超えの収量を上げた農家は△17円/kgの実体。国の補助金上限を撤廃すべし。

大変、興味深い報告が多くて、飼料用米生産振興に向けて有意義でした。報告の本数を少し減らした方が、より理解が進むのではないかと思います。

展示が試食室と一緒にあったり、廊下だったりで、全部見られたかどうかわかりません。せっかく展示してき出さったので、一か所になっていると見落としがなかったかもしれません。試食のときの学生さんが沢山いらしたので、もう少しお話が聞けばよかった反省しています。

今回初めて参加させていただきました。自分は牛乳・卵の勤務です。自身が所属する生協でも飼料用米の取り組みを行っていますが、飼料用米政策の現状を知ることができ、有意義な時間を過ごさせていただきました。特に、東農大の学生さんによる豚への飼料米の実験はとても興味深く聞かせていただきました。コスト面の課題はありますが、飼料米の可能性を感じた一日となりました。しかしながら、飼料米だけが保護されても、食用米が保護されなければお米自体を作る農家が減ってしまうなど多くのことを考える機会となりました。

普段聞かない言葉など多くあったので、少し学習したいと思います。特別講演、面白かったです。資料を帰ってからよく読みたいと思います。ニュースを見ていて、「なんで？」と思うようなことの裏のカラクリ？というか、三悪人の考え方もわかってスッキリしたところもありました。飼料用米活用ガイドとTPP反対は次世代への責任、2冊購入しましたので、よく読んで、ママ友と話せたらと思います。大型アンブレラ、ステキでした。

学生の飼料米を食べさせた豚の研究は喜ばしい限りです。聞いたところ、その道に進むとか、若い人がそういう道を選んでくれた事はとてもうれしい限りです。ぜひ、頑張ってもらいたいものです。本日の収穫でした。飼料用米の運動を応援しています。

東農大の学生さんの報告は良かった。

鈴木先生、良かったです。頑張ってくださいね！

ゆで卵は水からではなく、熱湯から入れて、茹で上がった後氷水で冷やすと殻がキレイにむけます。

試食（肉）・・・味付けが濃く、肉の味がわからなかった。飼料用米の取り組みの意義を語り、生協の利用につなげていく活動をこれからもやっていく。

盛り沢山で時間の設定が大変だと思います。2日間ぐらいの日程を1日で実行するのは大変なのでもう少し絞った方がよいと思います。

開場前の受付がダメ。誰かが案内誘導すべきなのに、資料の整頓でバタバタして、参加者そっちのけ。30分前には準備を整えておくように。とは一旦思いましたが、事務長が自らパワーポイントやマイクの操作をする姿を見るにつけ、「手弁当」で運営にあたっていらっしゃる方々の努力に感謝します。

途中、休憩時間がほしい。お尻が痛くなりました。

マイク、パソコンの不備が気になりました。試食は味付けが肉の良さを奪っていると思う。塩、コショウで食べないとわからない。

会場が狭い。

受付の際、配布資料は前日までに準備し、開始30分前には段取りをすることが必要です。開会等の挨拶の際は、プロジェクターには蓋をして挨拶をしていただくのが当たり前。黙祷の際に受付が騒がしいので注意すること。司会の方がパワーポイントの扱いに不慣れで見苦しい。第二部のプレゼンターに時間を守らない人が多かった。信岡先生の声が聞き取りにくかった。

講師の表情が見えないので、会場を明るくしてください。撮影に不向き。

司会の発言が多い。控えめにお願いします。

事務局より

以上、会場の設定、運営から内容に至るまで多岐に亘るご意見を賜りました。今後の運営に生かさせていただきます。来年、2017年3月17日（金）に第3回目（通算10回目）の「飼料用米普及のためのシンポジウム2017」を計画しておりますが、今回の反省を踏まえ、また、記念すべき通算10回目のシンポジウムですので、会場を同じ、東京大学弥生キャンパス内の弥生講堂・一条ホールを確保いたしました。